

## 経営理念

営業地区における企業・住民と共に生きる「共生」をモットーとし、信用金庫本来の基本的業務を誠実かつ堅実に行い、その金融機能を遺憾なく発揮し、適正な金融サービスの提供に努めると共に、揺るぎない信頼を確立していくため法令等遵守の徹底を図る。

また、地域に生まれ、地域と共に歩む信用金庫の原点を踏まえ、地域の発展と福祉の向上に積極的に貢献する。

## 平成22年度の事業概況

### 経営環境

当期の経済情勢につきましては、外需と経済対策の効果にけん引され、また夏場には猛暑効果も加わり日本経済は持ち直しを続けてきました。一方、急激な円高の進行やエコカー補助金制度終了に伴う影響により年央から景気は足踏み状態が続き、さらには3月11日に東日本を襲った大震災の影響で、足元の生産活動は落込み、夏場の電力供給不足への懸念が景気の先行き不透明感をいっそう強くしています。

### 平成22年度の業績

このような中、皆さまのおかげをいただき当金庫ではつぎのような業績をあげることができました。

預金は期中136億円増加し、期末残高は3,527億円となり、与信業務は地公体における一般財政調整資金の大口償還のほか、景況を映じて需資が弱含み、期中50億円減少の期末残高は1,401億円となりました。

資金証券運用につきましては、預け金は系統機関である信金中央金庫を主体とし、有価証券は国内債の中短期の社債やユーロ円債を中心に運用を行ってまいりました。この結果、当期純利益は10億32百万円を計上することができました。

剰余金の処分につきましては、出資配当金は前年同率の6%とし、他は全額内部留保金に充当し自己資本に加えさせていただきました。これにより、当金庫の自己資本金は320億円となり自己資本比率は17.54%となりました。

### 出資配当

当金庫は長年にわたって蓄積してきた堅固な経営体質と、資金の効率的な運用、諸経費の抑制により安定した収益の確保に努めてまいりました。この結果、平成22年度の出資配当につきましては、年6%とさせていただくことといたしました。

当金庫では、地域金融機関としての使命を全うするため、さらなる内部留保の充実により一層強靱な体質を維持し、会員皆さまの信頼にお応えすべく、安定的な配当を実施しております。